

戦争体験の手記

当時19才、父は軍隊経験を持ち、女ばかりの5人兄弟の三番目の私が選ばれました。

当時、熊本には看護婦養成所もなく、京都の東山赤十字病院にて養成を受けました。

其の時は時代悪化の傾向で、空襲もひんばん、その都度、若き軍人は病院の四、五階、又は、地下より地下室に担送の繰返し。

「日本の皆さん早く降参しないと日本という国はなくなります。」と、低空放送するけど、さすが京都名所旧跡に爆弾投下はせず、我がもの顔に機銃掃射あり。

その時の私は従軍看護婦の養成所が熊本にはない為に京都委託してあり、やっと三ヶ月の養成を終えて帰熊したが、帰熊した熊本市街は、がれきの山、白川の水につかって助かった人もいるという。

私も脱力し疲れきって発熱四十度、招集令も解除され、一年間休養し、健康を取り戻して現在に至る。